

## 伊勢湾・三河湾におけるカブトガニ採集記録 ～てん末記 その2～

伊勢湾・三河湾において2001年より採取されているカブトガニが、2008年までに45個体となりました(表-1)。

様々な情報により、これらは人為的に持ち込まれた中国産カブトガニが逃げ出し、定着し始めた可能性が高いと判断しました。



[写真-1] カブトガニの血液採取

発見当初、日本産と中国産カブトガニは、アジアに分布する同種であり区別できないと思われたのですが、九州大学大学院の学術研究員である西田 伸博士はDNAにより区別できると伺い、鑑定を依頼しました(写真-1,2)。

その結果、サンプルとして調べていただいた16個体(2002年～2008年採取)中14個体は中国産カブトガニのDNAと一致し、2個体は日本と中国双方で見られるタイプであることがわかりました。

また、2008年に採取された7個体はすべて成体であり、うち4個体2ペアは水槽内で繁殖をしました(飼育員ブログ参照)。これにより、自然界でもより一層、繁殖の可能性が高まったわけです。



[写真-2] カブトガニの血液

今後、知多半島東岸及び三河湾北西部の干潟を中心に、幼生の調査を実施する予定です。

皆さんも潮干狩りなどで干潟に出かけた際、小さな小さなカブトガニ幼生(写真-3)を発見されましたら是非、南知多ビーチランドまでご連絡下さい。



[写真-3] 孵化後1回脱皮した2齢幼生